

『計量国語学』アーカイブ

<b>ID</b>	KK290201
<b>種別</b>	ノート
<b>タイトル</b>	外来語の語形のゆれ(2)―バとヴァー
<b>Title</b>	Fluctuation of Forms of Japanese Loan Words: 'b' and 'v'
<b>著者</b>	荻野 綱男
<b>Author</b>	OGINO, Tsunao
<b>掲載号</b>	29巻2号
<b>発行日</b>	2013年9月27日
<b>開始ページ</b>	59
<b>終了ページ</b>	65
<b>著作権者</b>	計量国語学会

ノート

## 外来語の語形のゆれ (2)

ーバとヴァー

荻野 綱男 (日本大学)

### 要旨

日本語の「ゆれ」の一つに、英語のV音を外来語として受け入れる際にバ行音とするかヴァ行音とするかということがある。検索エンジンを使ってWWWを検索すると、ヒット件数がそれぞれの語形の出現頻度に近くなり、手軽に使用状況が把握できる。調査結果からは、バ行音での受け入れがすでに確立している例がたくさんあった。しかし、ヴァ行音も使われて、バ行音との間でゆれが認められる例もあった。それらは、(1) 音楽関係の語であったり、(2) 地名や人名であったり、(3) 英語以外の外来語が起源であったりするような場合が多かった。また、一部には、ヴァ行音が新しい意味を持つ語形として日本語に入りつつある例もあった。

キーワード: ゆれ, 検索エンジン, WWW, V音

### 1. 問題の発端

(英語からの) 外来語では、Vの発音を含む語が「バ、ビ、ブ、ベ、ボ」と表記される場合と、「ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ」と表記される場合がある。この現象に関して、何の規則もない単純なゆれなのか、それとも、何か規則性・傾向性があり、これこれの場合はこちらを使うというようなことがあるのかを調べたい。

資料としてはWWWを使うことにする。WWWは世界最大の規模のコーパスであること、無料で使えることなどのメリットがある。一方では、検索エンジンを使うとヒット件数が不安定で、いつも同様の結果を返してくるわけではないというデメリットがある。WWWを使って、いろいろな問題にチャレンジし、うまく結果が出ることによって、問題を解決するとともに、WWWがコーパスとして使い物になることを確認していきたい。そのような問題の一つとして外来語のゆれの問題を取り上げることにする。

なお、本稿では「語形のゆれ」としてバとヴァの問題を取り上げるが、資料として書かれたものを使うので、現象としては「表記のゆれ」ということになる。「語形のゆれ」は、厳密に言えば発音のゆれのことであるが、ここでは、表記のゆれを発音のゆれとみなして「語形のゆれ」としておく。しかし、ヴァで表記されたからといって「ヴァ」で発音されているとは必ずしもいえない点は注意が必要である。

### 2. WWWの調査方法

以下では「バ、ビ、ブ、ベ、ボ」が使われている語形を「バ語形」、「ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ」が使われている語形を「ヴァ語形」と呼ぶことにする。

実際の資料では、「ヴァ・ヴィ・ヴェ・ヴォ」と小書き仮名ではなく、「ヴァ・ヴィ・ヴェ・ヴォ」とする事例も見られる（「ヴァイオリン」「ヴィクトリア」「ヴェルサイユ」）が、これらは無視することにした。ヒット件数がごく小さいということが主な理由であるが、これらが書かれたとおりに発音されるとすると、バ語形とだいぶ違った発音になる点も考慮した上での判断である。

なお、ビヤ、ビュ、ビョとヴァ、ヴェ、ヴォのゆれは今回は扱わないことにした。

考えられるたくさんの単語について、「バ語形」と「ヴァ語形」がそれぞれ何例ずつあるのか、gooのウェブ検索で検索した。gooの検索エンジンを利用した理由は、GoogleやYahoo!よりも、gooのほうが、返されるヒット件数が安定しているためである。検索に当たっては各検索語を"|"でくくって指定した。

ここで示す結果は2013年5月14日から2013年6月26日にかけて収集したものである。

ただし、原語でBとVの両方の語形があるもの（たとえばbestとvest）は調査対象から外すことにした。

語形のリストアップにあたっては、goo英語辞典で、va,vi,vu,ve,voで始まる単語を調べて、外来語として使われているものをピックアップする方法と、内省で思いつく単語を書き出す方法を併用した。

検索エンジンのヒット件数は、しばしば不安定になるので、バ語形とヴァ語形でのゆれがありそうなものになるべくたくさんリストアップし、バ語形とヴァ語形のそれぞれをgooで検索し、ヒット件数を記録することにした。

### 3. WWWの調査結果

「ヴァ比率」（つまり「ヴァ語形」のパーセンテージ）を

$$\text{（ヴァ語形の件数）} \div \{ \text{（バ語形の件数）} + \text{（ヴァ語形の件数）} \} \times 100$$

で求める。小数点第2位を四捨五入する。

ヴァ語形の比率順に（高い方から）語形を並べ替えたのが表1である。

表中には、バ語形を示していないが、ヴァ語形がわかればバ語形は簡単に推定できる。ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォのすべてをバ、ビ、ブ、ベ、ボに置き換えた語形ということである。

表1 バ語形とヴァ語形のヒット件数とアルファベット表記

ヴァ比率	ヴァ語形	バ語形の ヒット件数	ヴァ語形の ヒット件数	アルファベット表記
88.8%	ヴィヴィッド	1,550,000 件	12,300,000 件	vivid
77.4%	ヴァンパイア	448,000 件	1,530,000 件	vampire
76.0%	ヴェルサーチ	91,000 件	288,000 件	Versace
72.7%	ヴィクトリア	744,000 件	1,980,000 件	Victoria
72.0%	デジャヴ	139,000 件	358,000 件	deja-vu (仏語)

66.4%	ヴァンテージ	2,070,000 件	4,090,000 件	vintage
60.2%	ベートーヴェン	320,000 件	484,000 件	Beethoven
58.8%	イヴ	1,490,000 件	2,130,000 件	Eve
50.8%	ヴェネチア	270,000 件	279,000 件	Venezia (イタリア)
47.6%	ラヴィアンローズ	32,200 件	29,300 件	La Vie en rose (仏語)
47.0%	ヴィレッジ	1,160,000 件	1,030,000 件	village
45.6%	ヴェール	1,060,000 件	889,000 件	veil
45.0%	ヴァージン	1,110,000 件	907,000 件	virgin
42.0%	ヴァイオリン	1,410,000 件	1,020,000 件	violin
41.4%	ビリーヴ	104,000 件	73,500 件	believe
39.2%	ネヴァー	261,000 件	168,000 件	never
37.9%	ヴィオラ	481,000 件	293,000 件	viola
37.5%	ヴェニス	200,000 件	120,000 件	Venice
31.2%	ヴィクトリー	665,000 件	302,000 件	victory
28.4%	ヴォーカル	3,800,000 件	1,510,000 件	vocal
20.8%	ヴェルサイユ	521,000 件	137,000 件	Versailles (仏語)
15.5%	ヴァイオレット	694,000 件	127,000 件	violet
12.6%	ヴァレンタインデー	99,500 件	14,300 件	Valentine Day
11.7%	ナイーヴ	209,000 件	27,700 件	naive (仏語)
10.8%	ヴァニラ	2,400,000 件	290,000 件	vanilla
10.5%	ヴォルケーノ	108,000 件	12,700 件	volcano
10.2%	ヴェルヴェット	621,000 件	70,200 件	velvet
10.0%	エヴァー	1,290,000 件	143,000 件	ever
9.8%	ヴォイス	4,970,000 件	537,000 件	voice
9.4%	オクターヴ	243,000 件	25,200 件	octave (仏語)
9.2%	ヴァカンス	695,000 件	70,300 件	vacances (仏語)
6.7%	ヴォルテージ	273,000 件	19,600 件	voltage
6.3%	ラヴ	14,400,000 件	973,000 件	love
6.1%	ヴァレンシア	403,000 件	26,100 件	Valencia
4.4%	ヴァイブレーション	419,000 件	19,100 件	vibration
4.3%	ヴァイタル	401,000 件	18,000 件	vital
3.6%	ファイヴ	2,730,000 件	102,000 件	five
3.2%	ヴァイオレンス	622,000 件	20,500 件	violence
3.0%	ヴォレー	267,000 件	8,240 件	volley
2.9%	ポジティブ	1,950,000 件	58,500 件	positive
2.8%	ネガティブ	1,770,000 件	51,600 件	negative
2.5%	カヴァー	24,100,000 件	620,000 件	cover
2.1%	オーヴァー	9,980,000 件	215,000 件	over
2.1%	ヴァイキング	3,700,000 件	79,700 件	the Vikings
2.1%	オリーブ	4,150,000 件	87,500 件	olive

1.7%	アクティヴ	4,320,000 件	75,700 件	active
1.4%	ヴァケーション	922,000 件	13,400 件	vacation
1.4%	ウエイヴ	74,800 件	1,060 件	wave
1.4%	スリーヴ	2,800,000 件	38,800 件	sleeve
1.3%	ヴェネズエラ	705,000 件	9,310 件	Venezuela
1.3%	ラスヴェガス	1,130,000 件	14,700 件	Las Vegas
1.1%	ドライブ	20,100,000 件	214,000 件	drive
0.9%	ヴォルト	3,690,000 件	34,800 件	volt
0.9%	クリエイティヴ	6,510,000 件	58,300 件	creative
0.7%	ヴォキャブラリー	244,000 件	1,620 件	vocabulary
0.6%	レビュー	61,400,000 件	362,000 件	review
0.5%	アドヴァイス	15,500,000 件	77,500 件	advice
0.5%	アドヴェンチャー	4,270,000 件	19,600 件	adventure
0.4%	ヴェジタブル	575,000 件	2,020 件	vegetable
0.3%	ヴァンクーヴァー	1,030,000 件	3,600 件	Vancouver
0.3%	レシーヴ	145,000 件	438 件	receive
0.3%	ヴァラエティー	1,750,000 件	5,230 件	variety
0.3%	ビデオ	30,700,000 件	85,700 件	video
0.3%	ヴァキューム	1,000,000 件	2,670 件	vacuum
0.3%	ヴェランダ	3,520,000 件	9,020 件	veranda
0.2%	ヴァイアグラ	761,000 件	1,870 件	Viagra
0.1%	ミニヴァン	1,390,000 件	1,960 件	mini van
0.1%	ヴェンチャー	4,120,000 件	4,930 件	venture
0.1%	ヴェクトル	1,560,000 件	1,670 件	vector
0.1%	ヴォランティア	7,880,000 件	8,130 件	volunteer
0.1%	ヴァルブ	2,890,000 件	2,680 件	valve
0.1%	ダイビング	3,340,000 件	2,690 件	diving
0.1%	トラベル	20,700,000 件	10,800 件	travel
0.0%	ヴァレーボール	3,200,000 件	82 件	volleyball

※ diacritics は省略してあり，英語以外の外国語注記は厳密でない。

#### 4. 調査結果からいえること

[1] ヴァ比率がゼロに近い，すなわちバの表記が圧倒的に高い場合が多い。

表1の下の方にある語はバ語形のヒット件数が非常に大きく，すでにバ語形が日本語に定着している（バ語形の形で固定的に使われる）語である。古くから（といっても明治以降であるはずだが）日本語に入り，バで定着したものがたくさんあることを意味している。ヴァ語形は，最近使われ始めているが，すでに定着したものを押しのけるほどの力はない。

語形のゆれがあったとき，もしも，一方が他方よりも少しでも自然と考えられる場合，実際に使う場面では自然なほうを使うと考えられる。したがって，このような大きな偏り

が出やすい。質問調査法でゆれている語形に関して自然かどうかを尋ねるような場合（特に、どちらが自然かと尋ねるのでなく、両語形のそれぞれに関して2回自然さを尋ねるような場合）、両方とも自然だという結果になる場合もあるが、WWWは言語使用の結果であるので、文章を書く場合は、複数のゆれがある場合でもどれか一つしか書けない。そこで、少し自然さに差がある場合にはWWWのヒット件数に大きな差が付き、表1のヴァ比率のように1%にも満たないものが続出するようなことになるのであろう。

[2] ヴァ比率が高いものは、それぞれ特徴がある。

表1の上の方にある語形は、ヴァ表記が相対的に多いものであるが、ヴァ表記が圧倒的に多いわけではなく、ヴァの表記とバの表記がゆれていると見られる。これらは、以下のような特徴がある。

(1) 音楽関係の語が多い。

ヴァ比率60.2%のベートーヴェン、42.0%のヴァイオリン、37.9%のヴィオラなどが該当する。28.4%のヴォーカル、9.4%のオクターヴなども含めて考えてもいいかもしれない。

音楽関係（特にクラシック系）ではヴァ語形が好まれる傾向があるといつてよい。クラシックを聴くことが好きな人は、そうでない人よりは外国語に親しんでいることが多いというようなことがありそうだ。

(2) 地名や人名が多い。

地名としては、ヴァ比率50.8%のヴェネチア（イタリア語形）、37.5%のヴェニス（英語形）、20.8%のヴェルサイユ（フランス語形）などがある。

人名としては、ヴァ比率76.0%のヴェルサーチ、72.7%のヴィクトリア、58.8%のイヴなどがある。

ただし、ヴェルサーチはブランド名の性格が強く、ヴィクトリアとイヴは、実際に使われた用例に当たってみると、多様なものを指す語である。しかし、人名の割合が多かったことから、ここでは人名と考えておくことにする。

(3) 英語以外からの外来語はヴァの表記を残す場合がある。

ヴァ比率72.0%のデジャヴや47.6%のラヴィアンローズのようなフランス語、50.8%のヴェネチアのイタリア語のように、英語以外が原語の外来語はヴァ語形がかなり使われる傾向がある。

英語以外からの外来語は、日本語に入ってきたのが新しいという語感がある。Vを含む語は、古くはバ語形で受け入れたものが、最近ではヴァ語形で受け入れるようになってきたということを表していると考えられる。

なお、元々英語辞典に載っている語を調べたのだが、そこには、フランス語やイタリア語の単語がそのまま載っていた。英語の文脈でもそのまま（外来語として）使われる傾向があるということだろう。日本語に入ってきたとき、それらがフランス語やイタリア語として（フランスやイタリアから）入ってきたのか、英語を通して（英語圏の国々から）入ってきたのかは、わからない。

「ベートーヴェン」なども、元々のドイツ語発音では「ベートーフェン」のはずである。

日本語で英語流発音をしているということは、ドイツ語からというよりは英語からの外来語として日本語に入ってきた可能性が高いということになる。

(4) ヴィヴィッドは、新しい意味で使われることが多い。

ヴァ比率 88.8% と今回の単語群で最高のヴァ比率を示したヴィヴィッドであるが、用例を調べると、形容動詞用法（ヴィヴィッドな、ヴィヴィッドに）はあまりなく、音楽グループ名、会社名（の一部）……などが多かった。もっとも、バ語形「ビビッド」の用例を調べると、こちらも形容動詞用法が多いわけではなく、さまざまな複合語の一部としての用法が目立つ結果になった。ヴァ語形もバ語形も、伝統的な形容動詞用法というよりは、新しい命名法として使われる場合が多いとみられる。そういう新しい命名としてはバ語形よりもヴァ語形が多く用いられているものとみられる。

(5) ヴァンパイアも、多様な意味で使われる。

ヴァ比率 77.4% のヴァンパイアであるが、元々の「吸血鬼」という意味で使われる場合は少なく、ゲーム名、ゲームキャラクタ名（の一部）、テレビ番組名（の一部）、映画のタイトル、曲名、……などさまざまな意味で使われており、「ヴァンパイア」が語構成要素になっているととらえられる。その場合、ヴァンパイアに「吸血鬼」の意味が残っている場合が多いのだが、単純にそのまま「吸血鬼」の意味で使われているというのとは違った状況である。

## 5. まとめ

日本語では、外来語の V 音は、古くからバ語形で受け入れてきた。日本語として定着してしまった外来語では、ヴァ語形が使われることがほとんどない。ところが、最近では、外来語の V 音をヴァ語形で受け入れる場合が多くなってきた。音楽関係、地名、人名などからヴァ語形が使われはじめ、だいたい浸透してきている。また、バ語形で定着している場合でも、あえてヴァ語形を使うことで、今までのバ語形の意味とは若干異なったものを指すような傾向も認められる。新しい意味で使いたいと感じるからヴァ語形で表現することなのだろう。言い換えると、ヴァ語形は複合語で使われやすいという面がある。

これらの傾向は、WWW が普及する前からの傾向であろう。本稿では、このような日本語の変化の一側面を WWW で比較的手軽に確認できるということを述べた。

## 謝辞

本稿の内容は、2013 年 7 月に国立国語研究所で行われた共同研究発表会「コーパス日本語学の創成」で口頭発表したものの一部である。

当日、会場でたくさんの有益なコメントをいただいた。感謝するしだいである。

## 参考文献

荻野綱男 (2013.6) 「外来語の語形のゆれ—チックとティッカー」計量国語学 Vol.29, No.1

(2013 年 7 月 26 日受付)

*Note*

## Fluctuation of Forms of Japanese Loan Words (2): 'b' and 'v'

OGINO Tsunao (Nihon University, College of Humanities and Sciences)

Abstract:

We can find a lot of fluctuation of wordforms in Japanese loan words. One of such examples is V sound in English, which is represented by 'b' and 'v' sounds in katakana notation. Using search engine for WWW, we can get hit counts, which is resumed to be numbers of frequencies of each wordform. The results showed that a number of loan words are represented by 'b' notation as established wordforms. But some words are fluctuated between 'b' and 'v' notations. They are (1) used in the field of music, (2) names of places and humans, (3) borrowed from non-English languages. We also found some wordforms with 'v' notation which stand for new meanings.

Keywords: fluctuation, search engine, WWW, V sound